

校長室
だより

思い合いの心で
おみっ子

みんなが笑顔

通信

令和2年3月19日
麻績村立麻績小学校
No. 47 (最終号)

皆様 大変お世話様になりました

18日(水)、令和元年度卒業証書授与式を無事終えることができました。

卒業生24名全員に卒業証書を手渡すことができましたので、ここにご報告いたします。昨今の状況ですので、麻績村からは飯森 力教育長様のみのご出席、保護者の皆様、職員のみでの参列ではありましたが、心を込めて巣立ちゆく卒業生をお送りすることができました。

卒業生は本当に立派で、卒業式を迎える心構えも礼法等もまったく準備無しでの当日本番を迎えましたが、堂々とした態度で一人ひとり退場するまでを立派にやり遂げました。これだから麻績の子どもたちの底力を信じていて間違いない、とわたしはあらためて思うのです。そして6年間の有終の美となるあの歌声を、わたしたちは忘れません。ご卒業おめでとうございます。

さて、続く離任式で今年度末をもって転退職する職員の紹介と挨拶を申し上げます。在校生の皆さん、お家の皆様にはこの書面をもって御礼をお伝え申し上げます。

宮入久美子 先生 (10年間) ご退職

自然豊かな麻績小学校にお世話になりました10年の月日が流れました。

振り返ってみますと、算数のTTとしてみなさんといっしょに勉強したことが、一番印象に残っています。わからない問題でもすぐには質問しないで、最後まで頑張るとり組むみなさんの姿が忘れられません。そして、苦労して問題がとけたときのうれしそうな笑顔も目に焼きついています。

これからも、どんな困難なことであっても、あきらめずに前を向いて進んでほしいと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

永田まりこ 先生 (1年間) ご退職

短い間でしたが、皆様とお勉強できたことを、とてもうれしく思います。自分の思ったことをはっきりと言える姿に驚いたり感心したり、これからはずっと大切にしてほしいです。お別れに金子みすゞの『大漁』という詩から

朝焼小焼だ 大漁だ

大羽鰯(いわし)の大漁だ

浜は祭りの ようだけど

海のなかでは 何万の

鰯のとむらい するだろう

人の傷みに気づける人になってください。

麻績が大好きです。お元気で。またお会いしましょう。

林 健史 先生 （6年間） ご退職

前略

卒業生の皆さん 中学ご入学 おめでとうございます。

小学校での6年間、一緒に学ばせて頂きました。皆さんの前には新しい未来や希望があります。もちろん責任も増えますが…。

それはそれとして、中学に入ったら開拓精神で何事にもチャレンジしてください！そして友達も大切にしてください。

お世話になりました。

花岡 利恵 先生 （11年間） ご退職

この度、家庭の事情により、3月末をもちまして退職することとなりました。麻績村の子供たちと一緒に過ごした11年間たくさんのことを学び、保護者の方の支えもあり、とても楽しい時を過ごす事ができました。心より感謝申し上げます。本当に今までありがとうございました。

鳥海 康 先生 （3年間） 生坂村立生坂小学校へご転任

楽しい三年間を麻績小学校で過ごさせていただきました。独楽寿司という地域と関わる教材を発掘し、地域と学校と教材（店）とを繋げられたことが、この麻績での成果の一つだと思います。新2年生は修学旅行では、独楽寿司をコースに入れることを検討してほしいです。急な臨時休校で6年生を送る会用に準備をしていた劇を披露することができなかつたことが心残りです。途中のお別れで心残りではありますが、さらっと去ります。

これまで何人もの子どもを年度途中、あるいは卒業前に他の学校へ送り出しました。私はそんな時大々的なお別れ会は一切しませんでした。「同じ空の下、縁があればいつかは会える、明日からはあちらの地でがんばるように」とただそれだけの言葉で送り出したことを今思い返しています。

今回は私の番です。これまでに送り出した子ども達と同じく、新しい地でがんばるようにします。お世話になりました。ありがとうございました。

小山 愁平 先生（2年間） 岡谷市立長地小学校へご転任

支援員として二年間お世話になりました。素直で明るくて元気な子どもたち、また、地域の方々の温かさにたくさん触れさせていただきました。大学卒業をして初めての地が麻績村で良かったなと思い、育てて頂いたこの二年間に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。麻績小学校のみなさん、これからも元気いっぱい、51年目からの歴史を創り上げていって下さい。

福田 弘彦 (3年間)

伊那市立伊那小学校へ転任

もとより力のないわたしが、はじめて「校長」とさせていただき、3年間をこの麻績の地で過ごさせていただくことができました。これもすべて麻績の皆様、麻績の子どもさん、そして先生方のお支えあってこそそのことです。

こんなわたしですが、ひとつだけ「誰にも負けないぞ」と胸をはって自慢できることがあります。それは、麻績の子どもたちを心から大好きなこと。

「いっぱい話してくれて、いっぱい遊んでくれて、いっしょにいてくれて、みんなありがと！」

心ゆくばかりに過ごすことができた毎日をありがとうございました。

これを持ちまして、令和元年度校長室だより『おみっこ通信』を最終号とさせていただきます。

皆様方、今日まで本当にありがとうございました。

お元気でお過ごしください。